

活動実績報告書

平成28年12月21日

登録番号 第20150472号

氏名 田畑琢己

1. 活動状況

平成25年4月 ~ 平成28年12月

【活動の概要】

当該業務では平成26年度にニホンジカ(以下、「シカ」という。)食害地における広葉樹林化の計画を策定・実行した。当該業務は小鹿野町森林整備計画を踏まえて、小鹿野町(町職員)、地域の森林・林業関係者、地域住民、秩父広域森林組合(以下、「関係4者」という。)からの意見を取り入れて広葉樹林化の計画から実現までを実施した。

【当該活動を挙げた理由】

当該業務では、小鹿野町森林整備計画を踏まえて関係4者からの意見を取り入れて広葉樹林化の計画から実現までを実施したため取り上げた。

【当該活動における立場と役割】

森林総合監理士として調査を行い、小鹿野町森林整備計画を踏まえた計画を作成した。地域の実態により森林総合監理士が構想の作成から実現までを実質的に実施することが求められている。当該業務では所属職場の事務分掌上、森林整備や獣害対策の支援をする立場にあり、関係4者の合意形成を図り広葉樹林化の計画策定から実現までを担当者として行った。

【問題点と課題及びそれへの具体的対応策】

計画対象地(以下、「対象地」という。)は埼玉県秩父郡小鹿野町にあり、小鹿野町森林整備計画において「水源涵養機能維持増進森林」に位置付けられている。また、対象地は日本百名山の両神山の山麓に位置し、景観上の配慮も必要となっている。対象地は平成15年6月に発生した山林火災の跡地に植林したものの、シカによる食害で現在、裸地化している。

当該業務の課題及び問題点は、①シカ食害地における植栽の考え方、②シカ食害地における樹種の選定、③①と②を踏まえたシカ食害地における具体的対策の検討であった。

①シカ食害地における植栽の考え方

植栽が困難であるため、シカによる食害に強く、現地採取ができる樹種を活用する。

②シカ食害地における樹種の選定

シカが多く生息する箇所では、シカによる食害を受け、裸地から森林への誘導が進まないという現状がある。シカの採食により下層植生が衰退している対象地では、シカが不嗜好性を示すフタリシズカ、ハシルドコロ等以外の草本は僅かであり高木種はシカの嗜好性の低いオオバアサガラのみ更新しているといつてよいほど植生の貧弱化が進行している。そこで、現地では植生回復が最優先でありオオバアサガラを導入することが有効であると考えた。

③シカ食害地における具体的対策

第1に、シカの対象地への侵入を防ぐために周囲を獣害防護柵で囲うとともに、獣害防護柵が破損したときに、獣害の蔓延を防ぐために中間部に間仕切を計画した。第2に、予算の制約から11.8haの対象地全域に対する植栽による復旧は困難であったので、周囲の天然林からの下種更新を計画した。対象地内を調査したところ一部にオオバアサガラが自生していたため、オオバアサガラの侵入が遅れている箇所への挿木を計画した。挿木は良好な発根が認められた挿穂長30cmとした。

【残された課題及び今後の改善方策】

今後、オオバアサガラの生育状況を調査して、対象地の緑化の過程を確認し、広葉樹林化への1つの方法を示すことができればと考えている。

注1:1. 活動状況については、直近の過去5年間に、森林総合監理士としての活動に関連していると考えられる、又は森林総合監理士として取り組んだ具体的な活動内容を記載してください。

2. 研修の受講状況

研修名	森林総合監理士 技術者育成研修
	平成 26 年 8 月 (実施主体)林野庁
研修名	森林総合監理士 実践研修
	平成 26 年 9 月 (実施主体)林野庁
研修名	森林総合監理士等のフォローアップのための現地検討会
	平成 28 年 3 月 (実施主体)林野庁
研修名	木質バイオマスのエネルギー利用研修(森林総合監理士フォローアップ研修)
	平成 28 年 7 月 (実施主体)林野庁

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

【研修への講師としての参加】

(1) 緑の雇用集合研修講師

平成 28 年 10 月 (実施主体)埼玉県林業労働力確保支援センター

埼玉新聞朝刊(平成 28 年 10 月 14 日)5 頁掲載

【雑誌、広報誌等への投稿】

(1)「シカの食害地における広葉樹林化の計画」林業普及情報 27 集(2015)21-25 頁

(2)「研修レポート バイオマスタウン真庭の概要と取組(平成 26 年度林業普及指導職員派遣研修)」林業普及情報 27 集(2015)49-55 頁

(3)「シカの食害地における広葉樹林化の計画と実施」林業普及情報 28 集(2016)24-27 頁

(4)「人材育成を見据え長期的展望に立った作業システムの構築について 一木村木材工業株式会社」機械化林業No.755(2016)21-25 頁

(5)「埼玉県小鹿野町における森林総合監理士の活動について」森林計画研究会会報 464 号(2016)7-11 頁

【学会誌への投稿(査読付論文)】

(1)「森林・林業再生プランにおける森林総合監理士(フォレスター)制度」自治体学(自治体学会誌)VOL.29-2(2016)34-38 頁

【シンポジウム等での発表】

(1)「人材育成を見据え長期的展望に立った作業システムの構築について」林業機械化推進事例集(林野庁研究指導課技術開発推進室、2016)17-18 頁

(2)「秩父地域における人材育成の取組」平成 28 年度 林業普及指導員 関東・山梨ブロックシンポジウム(2016)

注2:2. 研修の受講状況、及び3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況については、直近の過去5年間に取り組んだ具体的な内容と時期を記載してください。

注3:活動実績報告書は、A4で全2枚としてください。

注4:この活動実績報告書は、このままPDF化して林野庁ホームページに掲載しますので、見やすさ読みやすさ、個人の特定等、公開に差し障りのある表現にもご配慮ください。